

## 【第3回】尼崎市新型コロナウイルス感染症対策本部員会議 議事録

日 時：令和2年3月24日 午後1時～2時  
場 所：北館 4-1 会議室

### 冒頭あいさつ

市長：市内でも感染が発生しており、心身ともに疲れているところだと思うが、一定専門家会議の見解も出ており、それらを踏まえて私たちも長期戦だという心持ちで対策を進めていきたい。

### 1 感染者の状況について

市長：資料1の新型コロナウイルス感染症対策専門家会議のp2であるが、すでに発出している市長メッセージにも書いているとおり、「①クラスター（患者集団）の早期発見・早期対応」、「②患者の早期診断・重症者への集中治療の充実と医療提供体制の確保」、「③市民の行動変容」という3本柱を基本戦略とし、我が国に持ち込まれる新型コロナウイルスへの対応並びに、国内においてはクラスターの感染源が負えない事例が散発的に発生していることへの対策が必要であると言われている。

p6には、都道府県別にみた感染源が未知の感染者数の推移が示されている。兵庫県の感染はクラスターによるものが多く、リンク先不明のものではないが、ここ数日の兵庫県の発表を見ていると、デイケア施設関連の関係者などの事例や30代の方が2回陰性だったのに、3回目で要請などの事例などが発表されており、やはりクラスターが大規模に発生すると、そこからリンクを追えない状態や拡大が懸念される状況が兵庫県も示唆されており、非常に警戒が必要である。

資料2は、大阪府と兵庫県において警戒する必要があるとされているものであるが、特にリンク先不明が増えていき、爆発的に増えるというのが3ページ目になる。やはり、都市部において、人の出入りが多いので、警戒をして欲しい。オーバーシュートを起こさないようにする必要があることから、広域で動くとそれだけ感染を広げるということになる。

資料3については、3月19日の専門家会議やイギリス留学の方の感染も踏まえて、発出したメッセージであるが、専門家会議のメッセージも長期戦とロックダウンのことに触れられており、完全封鎖しなくていい対策をやりとげたいと専門家会議で言われている。尼崎市は大都市圏の大阪隣接であり悩ましいが、一定の考え方の元、しっかりとメリハリをつけて、そのうえで最低限のことは守り抜こうというメッセージを発信していきたいと考えている。また、専門家会議の資料のp13の最後の行に、「バランスのとれた食事、適度な運動、休養、睡眠などで抵抗力を高めていくことにも心がけてください」と書いてあり、基本的には良いコンディションを保つことが大切である。

## 2 新型コロナウイルス感染症の市内発生状況について

市長：事務局（感染症対策担当）から願います。

感染症対策担当：（資料4について説明）市内で9例報告されており、本市においては、因果関係が一定ひもづいているという状況である。一番恐れているのは、因果関係が分からないということで、そういったことがないよう、小さいことも丁寧に拾っていきながら対応し、感染者が発生した場合にも濃厚接触者を特定するなど、蔓延防止ということをしつかりと対応していく必要があると考えている。また、本市における陽性者を模式化したものが、次の図になる。

市長：尼崎市の場合はリンク先不明が何件か出てくると、気をつけないといけないので、そのような兆候がある場合は引き締めていく必要があるが、今のところは冷静に対応していけばいいという状況であると考えられる。

一方で、資料5で経済関係の資料を挙げていただいているが、清覧いただければと思う。カラオケ店のようなリスクの高いところについては、別途経済対策で手当てをしていき、飲食店等については、お互いが気を付けながら、感染リスクを抑えて継続していく必要があると考えている。

### 3 新型コロナウイルス感染症対策における本市の今後の対応について

市長：まず、参考に配っていただいたのが、資料6でこれは、大阪府、兵庫県、神戸市の対応方針の比較で、大阪府は舵を切りなおすということを先に行っており、かなりきつくなっている。兵庫県は本日、国のクラスター班を入れた県の会議をしており、少し大阪府を意識した取り組みが出てくるかもしれない。報道の話では広域での往来はしばらく自粛を要請し続けますという話であり、県の対応も見ながら対応していきたい。

そして、資料7の本市の今後の対応予定についてであるが、次の図にあるように、縦軸に制限などを考えていく際の環境そのもののリスクの大きさ、横軸に対象者の重症者リスクの大きさを座標軸に取り、当然、環境が悪く高齢者が多い右上が最も危険度が高いことになり、抵抗力の強い若い人が屋外で活動する左下が危険度が低いということになる。これは専門家がアドバイスしたものではなく、一旦、仮で置いてみたものである。専門家会議でも何度も言われているように、密閉、密集、密接、この3つを徹底的に避ける、この大原則を念頭に置きつつ、議論していきたい。

保健所の電話対応は現在、24時間対応としているが、3月26日以降は対応時間の変更を行うものとなっている。

医務監：現在、24時間体制をしているが、1、2件程度であり、一旦戻したい。

市長：次に市民課窓口であるが、例年、年度末は最終土曜日を開庁しているが、混雑緩和対応として、少し増やしていく予定としている。待ち合いも少し密度を下げるように早急に対応をお願いしたい。

総務局：今日、明日で椅子を導入して、スペースを確保したい。

市長：元々コロナ対策ではなかったが、土曜日開庁は混雑緩和対策として打ち出してもらいたい。ボートレースは無観客レースを継続し、乳幼児健診は4月再開予定。公共施設の休館・休業であるが、尼崎城は広域から不特定多数が来る可能性があるため、当面の館は休館を継続したい。図書館は本を選んで貸し借りできるので、自習室は引き続き閉鎖。いくしあ、ユース交流センターは音楽スタジオは当面の間自粛継続、他の部分は4月再開を目指す。

また、青少年体育道場は指定管理者の意向も踏まえ閉鎖を継続。青少年いこいの家、美方高原自然の家はイベントは自粛だが、屋外は現状維持。地区体育館は当面の間、引き続き休館。生涯学習プラザはフリースペースや自習室はやっておらず、現在は貸館のみであるが、26日から一定のルールで使用可にする。

総合政策局：書いていないが、名簿管理もしっかりやっていく。ただし、これは専門家会議の見解が出る前のものである。

市長：フリースペースは4月1日まで待つ、自習室は名簿管理をした上で、開けてもよいのではないかと。4月1日からは部活動も始まるので、26日から自習室は開けて欲しい。部活は1日再開を目指したい。自習室は名簿をお願いした上で、それぞれ対応を合わせていきたい。学校開放は屋外施設のみであるが26日から再開。要するにリスクの低いところから開けていく考え方であり、屋外施設と学校開放と自習室は26日から再開したい。

次に、児童ホーム、こどもクラブは予防策を講じた上で実施。できれば、自習室やこどもクラブなど、人が分散してもらいたい。

森山副市長：春休みに入った時点で自宅待機という要請はなくなっているという理解でよいか。

教育長：できるだけ外出は控えてくださいだが、休校なので自宅待機までは言っていない。

森山副市長：3学期の期間と春休みに入った間で対応は変わっているわけではないのか。

教育長：今は子どもを受けて入れているが、春休みに入ると通常の春休みと同じ状態になる。そのことについては対応は変わるが、受け入れが終わるということは各家庭は認識している。ただそれ以降はどうかという話になるので、こどもクラブはこうしていくなどの発信が必要である。

市長：森山副市長が言っていたのは、今までは公園とか総合体育館で若い子が遊んでたら密告されていたが、そのあたりのメッセージを整理していく必要があるという問題提起だと思っており、あまりにも運動をしない不規則な生活も問題があり、適度な散歩や運動は気をつけながらやっていこうというメッセージを出していく必要がある。そのあたりも含めて不

特定多数は問題があるが、屋外については開放していくというところを整理していきたい。  
どう出していくのか、そのあたりを少し整理していく必要がある。

教育長：教育委からはミマモルメ経由で各家庭に、運動は必要なので閉じこもってないで公園などに出て運動して下さいということは言っている。

市長：高齢者や障害者を対象とする施設については、引き続き慎重な取組みを継続していきたい。

専門家会議での話がある中で、市長メッセージでもう少し触れたいと考えており、広域から人が集まる密度の高い場所に不要不急の外出は控えて下さい、広域の往来は自粛して下さいというようなことを発信していきたい。また、海外から帰国した人は2週間健康に注意して欲しいということ、広域から不特定多数が集まり、3条件が揃うようなイベントについては、公共施設は貸さないという取組みが必要であると考えている。

参加する人の状況を踏まえて、それぞれこの図にあるようなリスクを考えて、総合的に判断する必要がある。

今日は基本的な方向性や対応について、共有してもらったと思うが、本日の兵庫県の会議の内容と擦り合わせた上で、対応予定の表を完成させていきたいと思う。

森山副市長：貸館、有料施設など類似施設は局間で調整してもらってから、統一方針として、危機管理に報告して欲しい。

市長：Line グループの活用や危機管理に報告をするなど、各局調整をして報告をお願いします。本日の会議はこれにて終了とする。

以 上